

## IASDR2013 第5回国際デザイン学会連合国際会議 開催結果報告

IASDR2013 組織運営委員会

IASDR2013: 第5回国際デザイン学会連合国際会議は、開会式に皇太子殿下の御臨席を賜り、日本学術会議および日本感性工学会と共同主催として開催されました。2006年にIASDR理事会で予定したこの大会は、2011年のデルフト大会で正式に大会のアナウンスを行い、学会員の皆様、また大会を組織運営で支えていただいた皆様の多大なるご支援を得て、これまでのIASDRで最多の参加者と発表件数のもとに開催する事ができました。

以下、開催概要、結果を記録に残すとともに、これまで大会を支えていただいたすべての皆様のご協力に感謝いたします。

### 1 開催概要

- (1) 会議名：(和文) 第5回国際デザイン学会連合国際会議  
(英文) International Congress of International Association of Societies of Design Research 2013  
(略称：IASDR Congress 2013)
- (2) 報告者：第5回国際デザイン学会連合国際会議組織運営委員会委員長 杉山 和雄
- (3) 主催：日本デザイン学会、日本感性工学会、日本学術会議
- (4) 開催期間：2013年8月26日(月)～8月30日(金)
- (5) 開催場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス(東京都江東区)
- (6) 参加状況：40カ国/1地域・800人(国外550人, 国内250人)

### 2 会議結果概要

- (1) 会議の背景(歴史)、日本開催の経緯：

日本デザイン学会は、1996年にアジア初のデザイン学の国際会議として中国・北京でアジアデザイン国際会議第1回大会を開催した。1999年には新潟県長岡市で第4回大会を、2003年には日本感性工学会・日本学術会議共同主催のもとに第6回アジアデザイン国際会議として茨城県つくば市において秋篠宮文仁親王御夫妻の御臨席を賜り、世界29カ国から450件の研究発表、800名の登録参加者によって開催した。この大会において、将来に向けてさらに幅広い国際デザイン学研究の推進について共同宣言が採択され、2005年に日本・韓国・台湾のデザイン学会、英国を拠点とするデザイン研究学会によって Internaitonal Association of Societies of Design Research (IASDR) を設立した。IASDRは第1回の雲林(台湾, 2005)以降、2007年に香港、



写真上から：皇太子殿下の御臨席を賜り挙行した開会式。開会式後にグッドデザインの展示をご視察された皇太子殿下。大会懇親会

2009年にソウル、2011年には第4回大会をデルフト工科大学（オランダ）で実施した。2009年のIASDR理事会で2013年の大会を日本で開催することが決定し、日本デザイン学会はデザインと産業力を繋ぐ「知の統合」を目指して日本感性工学会との共同主催を計画した。日本での開催は、前身の第6回アジアデザイン国際会議以来10年ぶり3回目、IASDRとしては初の日本開催となる。今回は、特に工学分野におけるデザインの取り組みやサービスデザインなどもテーマに取り入れ、感性・サービスなど諸科学における知を統合し、デザイン学研究の発展と応用展開を図ることを目的とした。

(2) 会議開催の意義・成果：

デザイン学は、製品・環境・サービスなど、生活に関わるあらゆる要素と人を繋ぐ要素を研究課題とし、歴史、哲学、心理、生理、情報、設計など多くの科学・工学的研究を統合して問題解決に当たる、まさに知の横断的融合をもって構成される学問体系である。特に現在では、感性工学やサービス工学、認知科学、人間工学、生活科学などの複合的学問分野と相互に関係しながら研究が遂行されている。ユニヴァーサルデザイン、インタラクションデザイン、キッズデザインといった、複合的かつ多様な人々のQOLに寄与するモノづくりに貢献しており、特に、近年我が国では感性価値創造を国家の主要課題として取り上げる機運があるが、その中核的価値創造の実践研究として注目されている。今回開催したIASDR2013は、製品・環境・サービスを創造するための基盤的技術である設計工学、感性工学との統合を強く意識し、横断的研究分野としてのデザイン研究の位置づけを世界に向けて発信する場を形成するという意味において画期的な研究集会として開催された。

(3) 当会議における主な議題（テーマ）：

本大会では、「Consilience and Innovation in Design：知の統合と革新」をメインテーマに掲げ、感性価値創造技術、サービスデザインの理論と実践、デザインマネジメント、デザイン哲学、デザインの歴史と文化、生理学・心理学・物理化学などの基礎科学とデザイン・感性工学の統合等を主要題目として研究発表と討論が行われた。その成果はデザイン学・感性工学と設計工学の関係の重要性の理解が深まった。

(4) 当会議の主な成果（結果）、日本が果たした役割：

本会議の日本開催は、デザイン学における世界トップレベルの研究者と日本の研究者、および感性工学と設計工学の研究者、加えて、Design of Excellence や学術会議連携プログラムに参画したデザイン実務者が直接意見を交わす絶好の機会となった。本会議は、世界40カ国1地域におよび

多数の国々から、800名の参加者、573件の研究発表があった。参加国数、参加者数ともに、過去4回の大会を超える数字であり、主催団体の努力がデザイン研究の一層の活性化に大きく貢献したと言える。

日本学術会議との連携プログラム「知の統合としてのデザイン科学と新パラダイム「タイムアクシス・デザイン」」においては、「デザイン科学（Design Science）」を世界各国の研究者、教育者へ発信することを目的として、2部構成により開催し、デザイン研究におけるデザイン科学の位置付けを示した。このプログラムにより、デザイン領域における本活動が他の学術領域に対する「知の統合」のひとつの参考事例となったと考えられる。

また、市民公開プログラム「安全・安心なコミュニティのデザイン」においては、より安全でかつ安心した生活を提供するためにユニヴァーサルデザイン、キッズデザイン、ロボット工学の役割について、学術展示とも連携して分かりやすく一般市民に説明することができた。

(5) 次回会議への動き：

本会議は、東洋と西洋の交互開催を原則としており、次回の2015年はオーストラリアのブリスベンに於いて開催されることとなった。

(6) 当会議開催中の模様：

開会式前日の8月26日には、博士課程学生の研究討議である Doctoral Colloquium、また2つのワークショップが行われ、多くの参加者が実践的な研究討議や新しいデザイン技術を学んだ。

8月27日は、10時から参加登録受け付けを開始し、参加者は開会式に先立って上映された、国際学生アニメーション大会（ICAF）のベストセレクション Show を堪能した。開会式会場はほぼ満席となり、引き続き行われた開会式には皇太子殿下の御臨席を賜り主催団体挨拶の後、英語でお言葉を頂いた。開会式の後皇太子殿下はキッズデザイン、ユニヴァーサルデザイン、グッドデザインなどに対する日本の取り組みの他、国際的なデザイン研究活動を紹介した Design of Excellence 展示を巡覧された。

開会式の後から研究発表セッションが始まり、30日の閉会までに499件の口頭発表、74件のポスター発表が行われた。日本学術会議との連携プログラムにおいては、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、南アメリカ、オセアニアから約100名の研究者、教育者、および博士学生が参加し、知の統合としての「デザイン科学とその意義や枠組みに関する議論を進め、後半には、デザイン科学を応用する新パラダイム「タイムアクシス・デザイン」＝人工物の継続的使用に伴う価値成長や人工物への愛着の深化などを実現し、ユーザや社会との新たな

## 第61回春季研究発表大会会告

な関係性の構築により、先述の社会的な諸課題に対応が可能なデザインの新たなパラダイムの提唱を行った。

また、市民公開プログラム「安全・安心なコミュニティのデザイン」は、Design of Excellenceと連携したユニヴァーサルデザイン、キッズデザインの成果である、デザイン賞受賞作品の展示も加え、一般市民にも分かりやすくデザインの果たすべき役割を伝えることができた。

また大会期間中に開催した国際デザイン学会連合理事会において、引き続き日本からの理事を選出することが決定し、日本側からの提案である本大会の成果も踏まえてデザイン学研究の国際的学術アーカイブを構築することを学会連合の目標の一つとして検討することとなった。

### (7) その他特筆すべき事項：

本大会は2006年の学会連合理事会で方向性を見出し、2010年から本格的に計画を開始したが、その後2011年の東日本大震災を受けて激変した日本の環境での開催に対する不安もあったが、2011年秋の第4回大会では急速に復興する日本の状況を説明し、無事開催する事ができた。最終的な研究発表件数は573件であったが、アブストラクト投稿数は1160件を数えた。参加者の登録国数は40カ国1地域であったが、日本からは中南米・アフリカなどから多くの留学生が発表しており、実際の参加者の国数は50カ国ほどであり、まさにデザインの学術研究集会としては、世界最大規模のものとなった。

### 3 日本学術会議との共同主催の意義・成果

日本学術会議と共同主催できたことで、開会式では皇太子殿下のご臨席を賜り、英語でご挨拶を賜ることができた。参加者からは、大変感銘をうけた光栄であるという感謝の声が多くきかれたと同時に、殿下にデザイン研究の広がりや感性工学・設計工学などの研究分野の役割について関心を強めていただくことができた。また、日本学術会議との連携プログラムにおいては、我が国における科学者の代表機関である日本学術会議が日本のアカデミーとしての立場から政策的な観点も踏まえ議論を進めたことによって、デザインの実践や歴史・理論、感性工学、設計工学、サービス工学、デザイン科学などを包含したデザイン学の発展に貢献できたと考えられる。また、会議全体として、日本学術会議との共同主催により国際的な広報活動も支援して頂くことができ、国内外の非常に広い分野の方に本会議を知って頂くことができたことは、非常に多くの参加者数を得たことに繋がり、世界のデザイン学研究のさらなる発展につながると期待できる。

第61回春季研究発表大会を、下記要領にて開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。

多数の会員の皆様のご参加、ご発表をお待ちしております。

日程：2014年7月4日（金）～6日（日）

会場：福井工業大学 福井キャンパス（福井県福井市）

※詳細につきましては準備ができ次第、日本デザイン学会サイトにてお知らせいたします。

なお、お問い合わせにつきましては、[jssd2014@fukui-ut.ac.jp](mailto:jssd2014@fukui-ut.ac.jp)までお願いいたします。

## 第5回日本デザイン学会第1支部大会報告

第1支部では、2年に一度持ち回りで支部大会を開催し、第5回支部大会を9月6日(金)~7日(土)に東北工業大学長町キャンパス(仙台市)をメイン会場として開催した。学生ワークショップ、研究発表、講演が実施された。教員、学生や市民合わせて60名程度が参加し、規模は大きいとは言えないが活発な交流が行われた。特に、日頃交流の機会が少ない学生にとって、他大学の学生や教員としっかり時間を取った直接的な交流ができたことは良い経験になった。

また、次回の第6回第1支部大会を東北芸術工科大学(山形市)で実施することを支部幹事会で決定した。

詳細や研究発表資料は facebook : <https://www.facebook.com/groups/481060261964744/>

### 9月6日 学生ワークショップ

テーマ：宮城・仙台での観光・ニューツーリズムを支援する道具・サービス・システムのデザイン提案をする

参加大学：東北工業大学、宮城大学、東北芸術工科大学

### 9月7日 研究発表・講演

#### 学生ワークショップ発表

口頭発表(口頭3件)、ポスター発表(ポスター5件 内参考展示2件)

発表大学：宮城大学、はこだて未来大学、八戸工業大学、東北工業大学

講演「デザインで地域から世界とつながる」

講師：鹿野護(東北工業大学 准教授 / WOW アートディレクター)



写真上から：  
学生ワークショップ at せんだいメディアテーク  
学生ワークショップ成果発表 at 長町キャンパス  
ポスター発表 at 長町キャンパス  
鹿野護氏による講演 at 長町キャンパス

## 第5支部活動報告

「第5支部平成25年度研究発表会・懇親会」について

第5支部長 伊原久裕

第5支部では「研究発表会・懇親会」を、平成25年10月5日(土)に崇城大学で開催しました。

本年度の発表件数は、研究発表40件、学生発表9件で、昨年度(31件、4件)と比較して増加しており、また参加者数も89名と盛況でした。

研究発表は、3つの会場で、6セッションが実施されました。いずれのセッションにおいても活発な議論が交わされました。学部生も参加可能な枠として設けている学生発表については、今年度から1時間程度の時間内で意見交換を行う標準的なポスター発表形式としました。余裕のある時間設定だったこともあり、学生にとっては様々な立場からのアドバイスを受けることのできる有意義な場となったようです。また、学内見学会も開催され、崇城大学本間教授の案内で、同大学芸術学部の充実した環境を見聞することができました。

研究発表会終了後に、食堂において恒例の懇親会を開催しました。参加者52名程度と盛況でした。

なお、同日に支部役員会を開催し、来年度の研究発表会・懇親会を九州産業大学で開催することが決定されました。



写真上から：研究発表、学生発表、懇親会

## 住所変更はお済みですか？

住所不明で戻ってくる郵便物が増えております。住所変更は確実にお願いします。届出は文書にてお願いします。転居される方は、FAX または綴じ込みの「入会届け」に朱書きで「変更届」と書き添えて、事務局までご連絡下さい。ホームページ：[http://jssd.jp/files/change\\_regular.pd](http://jssd.jp/files/change_regular.pd) にも様式が掲載されておりますのでご利用ください。退会等の届出も必ず文書にてお願いします。本部事務局

## 自動引き落とし手続きのお願い

当学会では、会費の自動引き落としが義務付けられております。すでに、半数以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済でない会員の方は、登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。また、口座引き落とし依頼書がお手元にない方は、本部事務局へご請求ください。

本部事務局

### 献本御礼

#### ◆寄贈図書

創発デザインの概念, 松岡由幸 編, 2013, 共立出版株式会社  
日本・地域・デザイン史 I, 芸術工学会地域デザイン史特設委員会 編, 2013

#### ◆論文集

第 29 回ファジィシステムシンポジウム講演論文集, 2013  
平成 25 年度工学教育研究講演会講演論文集, 公益社団法人日本工学教育協会, 2013

#### ◆紀要

紀要第 19 号, 名古屋造形大学, 2013  
多摩美術研究, 多摩美術大学大学院美術研究科, 2013  
デザイン理論 62, 意匠学会編, 2013

### 催し物

#### ジョセフ・クルーデカ展

- ◆会場：東京国立近代美術館 企画展ギャラリー
- ◆会期：2013 年 11 月 6 日(水)～2014 年 1 月 13 日(月)
- ◆開館時間：10:00-17:00 (金曜日は 10:00-20:00)※入館はそれぞれ閉館の 30 分前まで
- ◆休館日：毎週月曜 (12 月 23 日, 1 月 13 日は開館), 12 月 24 日(火), 年末年始(12 月 28 日(土) - 1 月 1 日(水・祝))
- ◆主催：東京国立近代美術館, マグナム・フォト東京支社
- ◆後援：チェコ共和国大使館, チェコセンター

#### 現代のプロダクトデザイナー Made in Japan を生む展

- ◆会場：東京国立近代美術館 ギャラリー 4
- ◆会期：2013 年 11 月 1 日(金)～2014 年 1 月 13 日(月)
- ◆開館時間：10:00-17:00 (金曜日は 10:00-20:00) \* 入館は閉館 30 分前まで
- ◆休館日：月曜日(11 月 4 日, 12 月 23 日, 2014 年 1 月 13 日は開館), 11 月 5 日(火), 12 月 24 日(火), 年末年始(12 月 28 日(土) - 1 月 1 日(水・祝))
- ◆主催：東京国立近代美術館

---

第7回 雪のデザイン賞入選作品展

- ◆会場：中谷宇吉郎雪の科学館
- ◆会期：平成25年10月31日(木)～平成26年2月11日(祝)
- ◆主催：加賀市 中谷宇吉郎雪の科学館
- ◆後援：石川県、(公財)石川県デザインセンター、(公社)日本雪氷学会、(社)雪センター、NHK金沢放送局、片山津温泉観光協会、山代温泉観光協会、山中温泉観光協会、加賀九谷陶磁器協同組合、山中漆器連合協同組合、(社)加賀市観光交流機構
- ◆特別協賛：AMORE PACIFIC (韓国)

---

Next Eco Design 展

- ◆会期：2013年11月28日(木)～12月17日(火)10:30-19:00、水曜定休
- ◆会場：リビングデザインセンター OZONE3階、オゾンプラザ
- ◆主催：公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会 東日本ブロック環境委員会
- ◆特別協力：リビングデザインセンター OZONE
- ◆特別協賛：株式会社トゥールズインターナショナル

---

クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品を中心に  
印象派を超えて一点描の画家たち  
ゴッホ、スーラからモンドリアンまで

- ◆会期：2013年10月4日(金)～12月23日(月・祝)
- ◆開館時間：午前10時～午後6時 金曜日は午後8時まで(入場は閉館の30分前まで)
- ◆休館日：毎週火曜日
- ◆会場：国立新美術館 企画展示室1E (〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2) <http://www.nact.jp/>
- ◆主催：国立新美術館、東京新聞、NHK、NHKプロモーション
- ◆共催：クレラー＝ミュラー美術館
- ◆後援：オランダ王国大使館

---

日本美術の祭典

- クリーブランド美術館展 ― 名画でたどる日本の美
- ◆会期：2014年1月15日(水)～2月23日(日)
- ◆会場：東京国立博物館平成館 特別展示室第1・2室〔上野公園〕〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
- ◆開館時間：午前9時30分～午後5時 \*入館は閉館の30分前まで
- ◆休館日：月曜日
- ◆主催：東京国立博物館 クリーブランド美術館 NHK NHKプロモーション 朝日新聞社
- ◆協賛：日本写真印刷
- ◆協力：全日本空輸

- 日本伝統工芸展60回記念 人間国宝展 ― 生み出された美、伝えゆくわざ―
- ◆会期：2014年1月15日(水)～2月23日(日)
- ◆会場：東京国立博物館平成館 特別展示室第3・4室〔上野公園〕〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
- ◆開館時間：午前9時30分～午後5時 \*入館は閉館の30分前まで
- ◆休館日：月曜日
- ◆主催：東京国立博物館 文化庁 NHK NHKプロモーション 朝日新聞社 日本工芸会
- ◆協賛：花王、日本写真印刷

- 日本美術院再興100年 特別展 世紀の日本画
- ◆会期：[前期] 1月25日(土)～2月25日(火) [後期] 3月1日(土)～4月1日(火)
- ◆会場：東京都美術館企画展示室〔上野公園〕〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36
- ◆開館時間：午前9時30分～5時30分、金曜日のみ午後8時まで \*入室は閉室の30分前まで
- ◆休館日：月曜日(ただし2/24、3/31は開室)、2/26～28
- ◆主催：東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団) 日本美術院 NHK NHKプロモーション 朝日新聞社
- ◆協賛：日本写真印刷、三井住友海上、三井物産

## 会員の移動

◆平成25年度第四回理事会承認 2013.09.21

### 新入会

正会員 15名（内外国人4名）

石塚 耕一	大西 果林	岡 達也
河野 泉	瀧 知恵美	武田 裕
内記 麻子	野坂 伸	松尾 晃成
本江 正茂	和田 紀彦	呉 起東
王 照明	Yang Pao-hua	Tingyi S. Lin

学生会員 5名

鵜飼 昭年	篠原 由樹	杉森 順子
伴野 信彦	古川 隆	

### 退会

正会員 5名（内外国人1名）

池田 和樹	居郷 翔	櫻田 真也
田場 直也	陳 俊甫	

学生会員 2名

中鉢 耕平	水町 悠貴
-------	-------

年間購読会員 1件

東海大学附属図書館 旭川図書館

◆平成25年度第五回理事会承認 2013.10.19

新入会 正会員 6名（内外国人3名）

佐藤 公一	豊島 祐樹	百瀬 和浩
Kuang-Yi Fan	Li-Hao Chen	Hui-chuan Chen

学生会員 3名

井上 裕太	佐藤 研人	錫木 公孝
-------	-------	-------

### 退会

正会員 1名

小田 正美